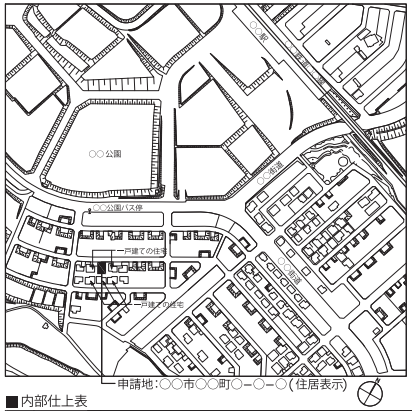
第2章 確認申請図書の作成例

3. 確認申請図書（参考）

■付近見取図 S=1/5000



■計画概要

工事名称	○○邸新築工事	
建築主	住所	東京都○○市○○町○－○－○
	氏名	住宅 太郎
敷地概要	地名地番	東京都○○市○○町△－△
	住居表示	東京都○○市○○町○－○－○
	敷地面積	165.00㎡
	都市計画区域	市街化区域
	用途地域	第1種低層住居専用地域
	防火地域	指定なし（法22条区域）
	指定建蔽率	50％
	指定容積率	100％
	高さ制限	10m
	高度地区	－
	日影規制	4時間，2.5時間，1.5m
	道路	前面道路幅員6.000m、接道長さ11.000m
	土砂災害特別警戒区域	－
建築概要	建物用途	一戸建ての住宅
	工事の種別	新築工事
	構造	木造
	階数	2階建て
	地盤面	BM+0.336m
	最高高さ	8.114m
	軒高さ	6.404m
	建築面積	71.21㎡
	床面積 1階床面積	69.22㎡
	2階床面積	52.99㎡
	延床面積	122.21㎡

■内部仕上表

階	室名	床 仕上 / 下地	記号	厚	巾木 仕上	H	厚	壁 仕上 / 下地	記号	厚	回縁	天井 仕上 / 下地	記号	厚	備考
1階	玄関	磁器質施釉タイル150角		9	磁器質施釉タイル150角	150	9	ビニールクロス貼	W1		木製回縁	ビニールクロス貼	C1		手すり下地
		モルタル		30				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	
	ホール・廊下	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニールクロス貼	W1		木製回縁	ビニールクロス貼	C1		
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	
	物入	合板1類	F5	15	雑巾摺			合板1類	W4	9.5	木製回縁	合板1類	C3	9.5	
		構造用合板	F6	24											
	納戸	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニールクロス貼	W1		木製回縁	ビニールクロス貼	C1		点検口（天井）
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	ブラインド
	和室（特定寝室）	本畳敷き	F2	30	畳寄			じゅらく塗	W2	8	木製回縁	化粧せっこうボード	C2	9.5	障子
		構造用合板	F6	9				ラスボード	W6	7.5					床：カラマツ縁甲板(アリ)15
	押入	合板1類	F5	15	雑巾摺			合板1類	W4	12.5	木製回縁	合板1類	C3	9.5	
		構造用合板	F6	24											
	台所	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニールクロス貼	W1		木製回縁	ビニールクロス貼	C1		レンジフード、掃除口（トラップ）
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	ビニールクロス貼（準不燃材料）
	居間・食事室	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニールクロス貼/杉板貼	W1/W3	－/8	木製回縁	ビニールクロス貼	C1		カーテン
		構造用合板	F6	24				せっこうボード/－	W5/－	12.5/－		せっこうボード	C4	9.5	
	洗面・脱衣室	塩化ビニール製床材	F3	2.3	ビニル製巾木	60	15	ビニールクロス貼	W1		塩ビ製回縁	ビニールクロス貼	C1		換気扇、掃除口（トラップ）
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	点検口（床）,ブラインド,手すり下地
	便所	塩化ビニール製床材	F3	2.3	ビニル製巾木	60	15	ビニールクロス貼	W1		塩ビ製回縁	ビニールクロス貼	C1		手すり、換気扇
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	
	浴室														ユニットバス1616バリアフリー仕様
															手すり、換気扇、掃除口（トラップ）
2階	階段	集成材段板	F4	30				ビニールクロス貼	W1		木製回縁	ビニールクロス貼	C1		手すり
								せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	
	廊下	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニールクロス貼	W1		木製回縁	ビニールクロス貼	C1		
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	
	物入	合板1類	F5	15	雑巾摺			合板1類	W4	9.5	木製回縁	合板1類	C3	9.5	
		構造用合板	F6	24											
	洋室1, 2	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニールクロス貼	W1		木製回縁	ビニールクロス貼	C1		カーテン
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	
	主寝室	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニールクロス貼	W1		木製回縁	ビニールクロス貼	C1		カーテン
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	
	便所	塩化ビニール製床材	F3	2.3	木製巾木	60	15	ビニールクロス貼	W1		塩ビ製回縁	ビニールクロス貼	C1		手すり、換気扇
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5	ブラインド

■外部仕上表

部位	下地・仕上	備考
基礎	鉄筋コンクリート造ベタ基礎	
床下換気口	ねこ土台（有効面積200cm2/m、高さ20mm）	防虫網
外壁	窯業系サイディングボード18mm(通気構法)	防火時間30分（認定番号：PC030BE－○○○○）
軒裏	繊維混入ケイ酸カルシウム板厚11mm	防火時間30分（認定番号：QF030RS－○○○○）
外部開口部	アルミ製ドア、アルミ製サッシ	防火時間20分（認定番号：EB－○○○○,△△△△,□□□□,●●●●）
	複層ガラスA12(網入厚6.8含)	防火設備
屋根	野地板：構造用合板　特類 厚12mm	
	改質アスファルトルーフィング	
	粘土瓦	

■仕様表

単位：特記なき限り(mm)

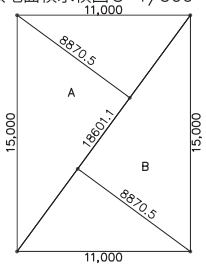
住宅の名称　○○様邸（東京都○○市○○町○-○-○）

仕様が複数ある場合、必要最小限の仕様のもの、又は仕様の範囲を以下に記載

項目	小項目	仕様		備考
建築材料（法第37条）	基礎コンクリート	JIS	設計基準強度Fc：24N/mm²以上 スランプ：18cm以下	
	基礎鉄筋	JIS	SD295	
令第2章第2節（居室の天井の高さ、床の高さ及び防湿方法）	居室の床の高さ及び防湿方法（令第22条）	床の高さ	640(直下の地面(BM+400)から)	
		防湿方法	ねこ土台(有効換気面積75cm²/m)	
令第3章第2節（構造部材等）	構造部材の耐久（令第37条）	構造耐力上主要な部分	腐食、腐朽、摩損のおそれのあるものに腐食等防止の措置	
	基礎（令第38条）	支持地盤の種別及び位置	砂質地盤(GL-0.5m)	
		基礎の種類	鉄筋コンクリート造ベた基礎	
		基礎の底部の位置	地盤面からの深さ：GL-100、根入れ：GL-300	
		基礎の底部に作用する荷重の数値・算出方法	地盤の許容応力度　30kN/㎡	
		木くい及び常水面の位置	対象外(木くい無し)	
		鉄筋	主筋：D13、立上り・底盤・開口補強筋：D10	フック有
	地盤調査（令第38条）	地盤調査	SWS試験	SWS試験結果に基づく地盤調査報告書（添付省略）
		地盤改良	該当なし	
	屋根ふき材等（令第39条）	屋根ふき材の固定方法	平部：全数固定、棟部：ねじ固定、軒・けらば：ねじ3本固定	
		屋外に面する部分のタイル等の緊結方法	該当なし	
		太陽光システム等を設置した際の防錆処理	該当なし	
令第3章第3節（木構造）	木材（令第41条）	木材の規格(JAS)または等級	構架材、柱材、筋かい等、その他：無等級材 耐力上の欠点のないこと	
	土台及び基礎（令第42条）	柱脚の固定方法	土台120×120(ヒノキ、無等級材)を設ける	
		土台の固定方法	アンカーボルト(M12)＋座金(厚)4.5×40角×14φにより緊結、柱から200以内に設置(設置間隔：2700以内)	Zマーク表示金物又は同等認定品
	柱の小径（令第43条）	横架材間距離	1階　小径120、横架材相互間の垂直距離の最大:2844　柱の小径と横架材間内法寸法の比率:1/23.7 2階　小径120、横架材相互間の垂直距離の最大:2730　柱の小径と横架材間内法寸法の比率:1/22.8	
		柱断面の欠き取り(1/3以上)の有無	1/3以上欠き取る場合は適切に補強	
		2階建てのすみ柱	通し柱、又は同等の補強(N値計算による)	
		有効細長比(最大値)	1階　座屈長さ:2844、断面最小二次率半径:34.64 柱の有効細長比=82.1<150 2階　座屈長さ:2730、断面最小二次率半径:34.64 柱の有効細長比=78.9<150	座屈長さ＝構架材相互間内法
	はり等の横架材（令第44条）	中央部付近の下側に耐力上支障のある欠き込み	欠込み：無し	
	筋かい（令第45条）	筋かいの断面	45×90	
		筋かいの欠き込み	原則欠き込み無し (必要な場合)たすき部補強：両面から短冊金物(S)当て六角ボルト(M12)締め、スクリューくぎ(ZS50)打ち	Zマーク表示金物又は同等認定品
	構造耐力上必要な軸組（令第46条）	第1項	主要な梁せい：スギ(120×120～240)	
		第3項　床組・小屋ばり組の火打、構造用合板等、振れ止め	床組：構造用合板(厚)24 小屋ばり組：火打ちばり(木製)、振れ止め：設置 火打土台：スギ(45×90)ユニットバス、土間床部分は除く	
		第4項　壁量基準(耐震・耐風)	筋かい(45×90シングル、ダブル)、配置は壁量平面図による	
	継手・仕口（令第47条）	筋かい端部	緊結方法：筋かいプレート(BP2等)	Zマーク表示金物又は同等認定品
		耐力壁両側柱頭・柱脚	N値計算による	N値計算書
		その他の柱頭・柱脚	かど金物(CP-L)等	Zマーク表示金物又は同等認定品
		小屋組の接合方法	耐風性向上のための接合部仕様 たるさ・軒桁接合：ひねり金物ST-15 たるさ・むや接合：鉄丸くぎZ-N75　2本斜め打ち 小屋束・小屋ばり・小屋梁・むや接合：かすがいC120両面打ち	平12建告第1460号 基準風速：34m/s、 樹種：J3(スギ) Zマーク表示金物又は同等認定品
	防腐措置等（令第49条）	鉄網モルタル下地等の防水措置	該当なし	
		構造耐力上主要な部分の柱、筋かい、土台	地面から1mの範囲で防腐・防蟻処理	
令第3章第4節の2（補強コンクリートブロック造）	塀（令第62条の8）	構造方法	控え壁なし	塀の高さ＝1200
		材料の種別	建築用コンクリートブロックA種	
		壁の厚さ	150	
		補強筋	壁内部　縦横に80cm間隔にD10配置 横筋：壁頂・基礎補強筋、縦筋：壁端部、隅角部　D10	
		補強筋端部	端部はかぎ状に折り曲げ、交差する鉄筋にかぎ掛け	
防火構造延焼のおそれのある部分	屋根（法第22条）	仕上	粘土瓦(防災瓦)	瓦:不燃材料
		野地板	構造用合板特類(厚)12 鉄丸くぎN38　150ピッチでたるきに固定	
		防水紙	改質アスファルトルーフィング940(22kg)	
	外壁（法第23条）	仕上	窯業系サイディング(厚)18　通気構造	準防火材料(型証番号XX)
	軒裏（令第108条）	仕上	繊維混入ケイ酸カルシウム板(厚)11.5　EP	
居室の内装	内装材（令第20条の7）	内装材(複合フローリング、集成材、ビニルクロス、化粧石こうボード、ふすま紙、内装・収納ドア、洗面化粧台、キッチンセット、換気扇)	全てF☆☆☆☆	全ての居室
居室の換気	換気設備（令第20条の8）	機械換気設備の構造	第3種機械換気設備　80㎥/h　×2基(1, 2階便所に設置)、各居室に給気口設置	内装ドアにはアンダーカットH=10、または換気ガラリ設置
		天井裏等(合板、構造用合板、収納内部、石こうボード)	全てF☆☆☆☆	全ての天井裏等
給排水衛生設備	建築設備の構造強度（令第129条の2の3）	昇降機以外の建築設備の構造方法	建築物に設ける昇降機以外の建築設備の安全設置に関する平12建告第1388号および同を第5改正(平24国交告第1447号)の構造方法に、従い設置	平25国住指第4725号(給湯設備の転倒防止に係る技術基準の改正 技術的助言)
	給水、排水その他の配管設備（令第129条の2の4）	給水・給湯管材料	引込：ステンレス管 敷地内：耐衝撃硬質塩化ビニル管 住戸内：架橋ポリエチレン管	
		排水管材料	排水桝：コンクリート製桝、硬質塩化ビニル製桝 排水管：硬質塩化ビニル製排水管 地中埋設管：防食テープにて処理 排水勾配：1/100以上 管径は、上下水道局の基準による	
		水栓	吐水口空間を有効に確保する	
特定行政庁が条例、規則で定める規定	法第40条	-		
	法第41条	-		

一級建築士事務所　○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築　次郎	工事名称 ○○邸新築工事			
	図面名称 計画概要・付近見取図・内部仕上表・外部仕上表・仕様表	縮尺 1/5000	図番 01	

■敷地面積求積図 S=1/300

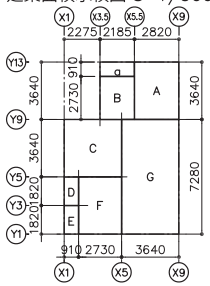


■敷地面積表

符号	底辺	高さ	倍面積
A	18.6011	8.8705	165.0010
B	18.6011	8.8705	165.0010
		倍面積合計	330.0021
		合計面積	165.0010
		地積	165.00 m2

■配置図 S=1/100

■1階床面積及び
建築面積求積図 S=1/300



■床面積表

	縦	横	面積
a	0.91	2.185	1.98835
A	3.64	2.82	10.2648
B	2.73	2.185	5.96505
C	3.64	3.64	13.2496
D	1.82	0.91	1.6562
E	1.82	0.91	1.6562
F	3.64	2.73	9.9372
G	7.28	3.64	26.4992
H	3.64	3.64	13.2496
I	3.64	3.64	13.2496
J	4.55	3.64	16.562
K	2.73	3.64	9.9372

1階床面積	A+B+C+D+E+F+G=	69.228 m2
	=	69.22 m2
2階床面積	H+I+J+K=	52.998 m2
	=	52.99 m2
延床面積 ≠容積対象面積)		
	1階床面積+2階床面積=	122.21 m2
	容積率 74.07% < 100%(∴OK)	
建築面積	a+A+B+C+D+E+F+G=	71.216 m2
		71.21 m2
	建蔽率 43.16% < 50%(∴OK)	

■各位置高さ

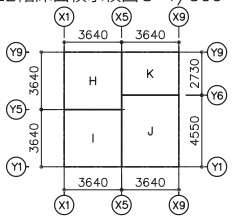
	道路中心高からの高さ	地盤面からの高さ
樋先 i	3.610 m	3.324m
樋先 ii	6.472 m	6.186m
寄棟頂部	8.400 m	8.114m

■斜線検討

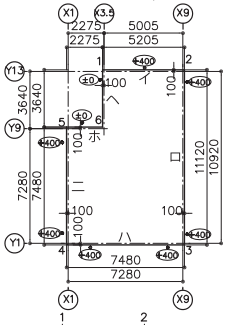
斜線検討 I
道路斜線距離 =7.465
道路斜線の高さ =7.465 ×1.25
=9.331
軒先 i 高さ =3.610 ∴OK

斜線検討 II
北側斜線距離 =2.007
北側斜線の高さ =5.000+2.007 ×1.25
=7.508
軒先 ii 高さ =6.186 ∴OK

■2階床面積求積図 S=1/300



■地盤面算定表 S=1/300



■地盤面算定表

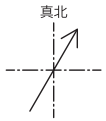
	長さ m	高さ m	面積 m2
イ	5.205	0.4	2.082
ロ	11.12	0.4	4.448
ハ	7.48	0.4	2.992
ニ	7.48	0.4	2.992
ホ	2.275	0	0
ヘ	3.64	0	0
合計	37.20		12.514
地盤面	= 12.51m2/37.20m		=0.33639m
			=BM+336mm

■凡例

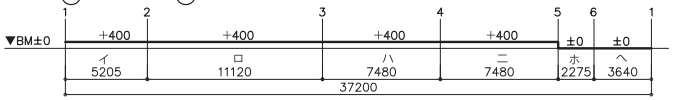
排水桝

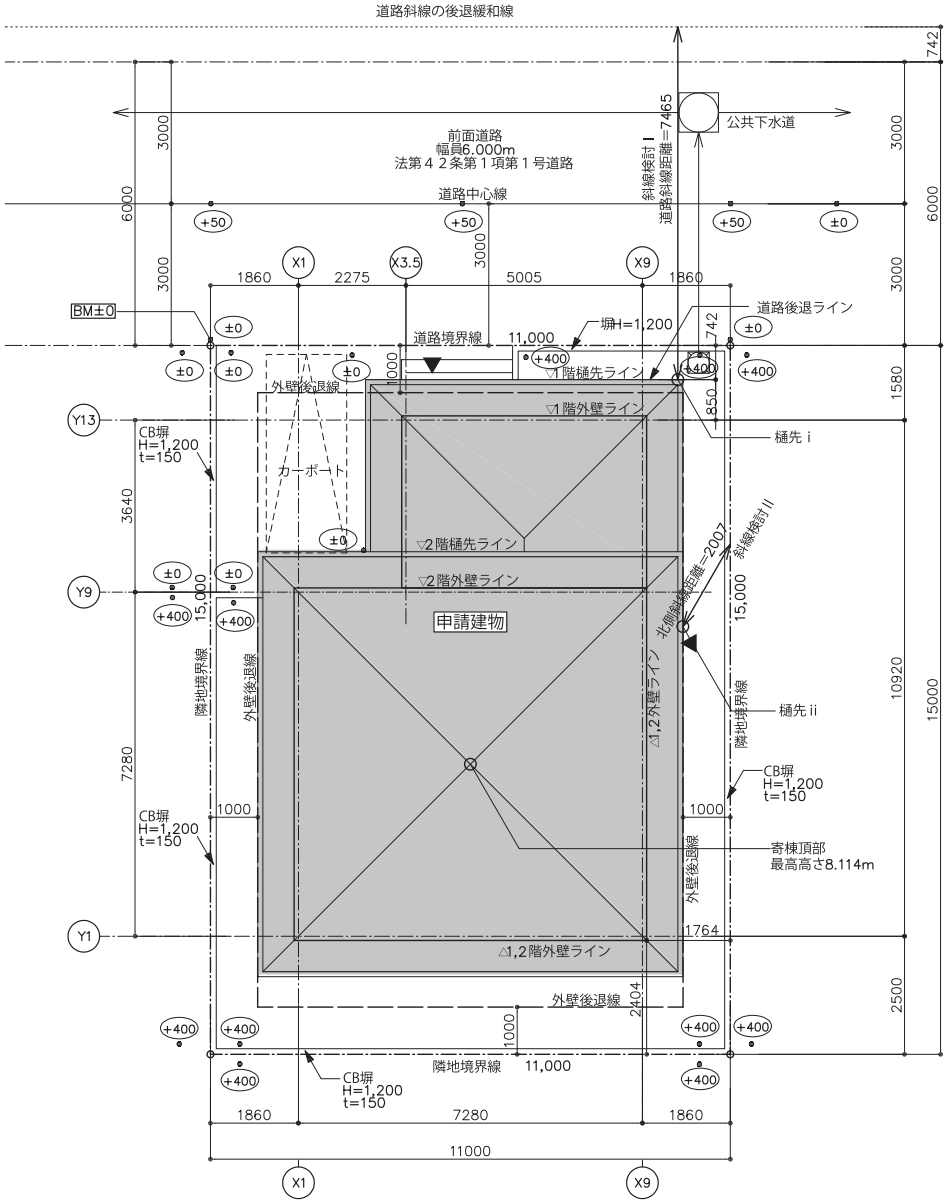
地盤面=BM+336

±0 BMからの高さを示す

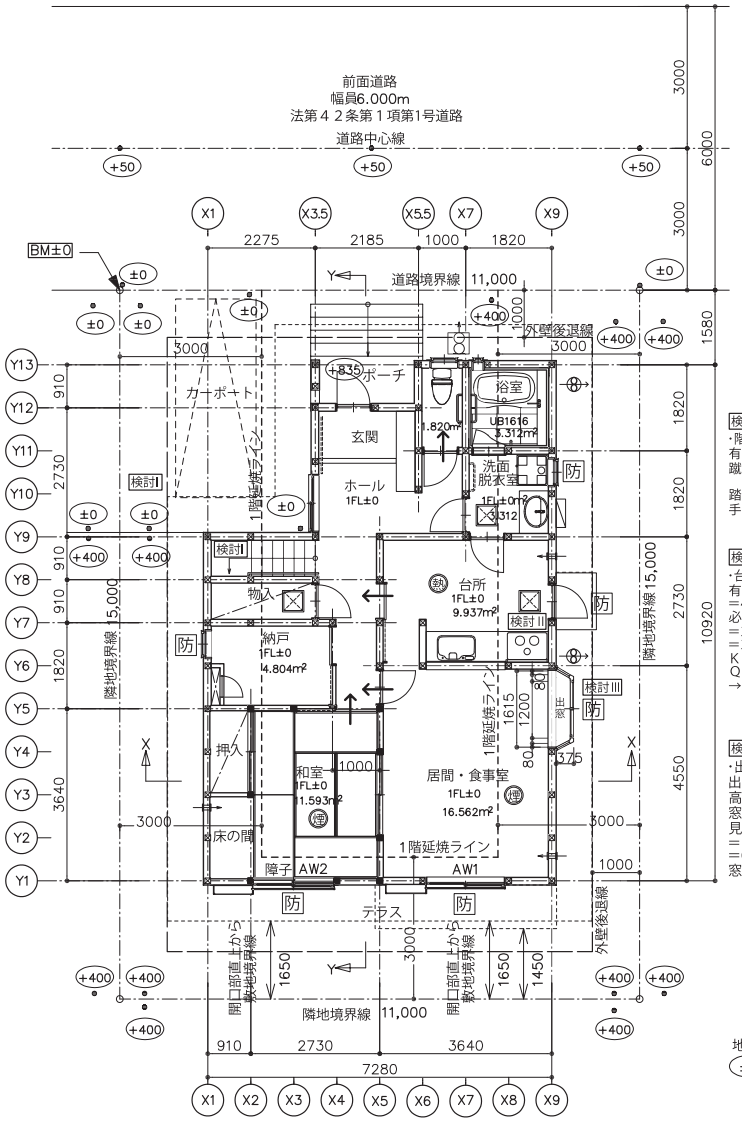


真北方向と隣地境界線との
角度振れは30°





一級建築士事務所	○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	工事名称 ○○邸新築工事	日付
		図面名称 求積図・地盤面算定表・配置図	縮尺 1/100	図番 02



検討I
・階段検討
有効幅 766
蹴上げ 階高/段数=2900/15
=199.33
踏面 910/4=227.5
手摺幅 壁から90

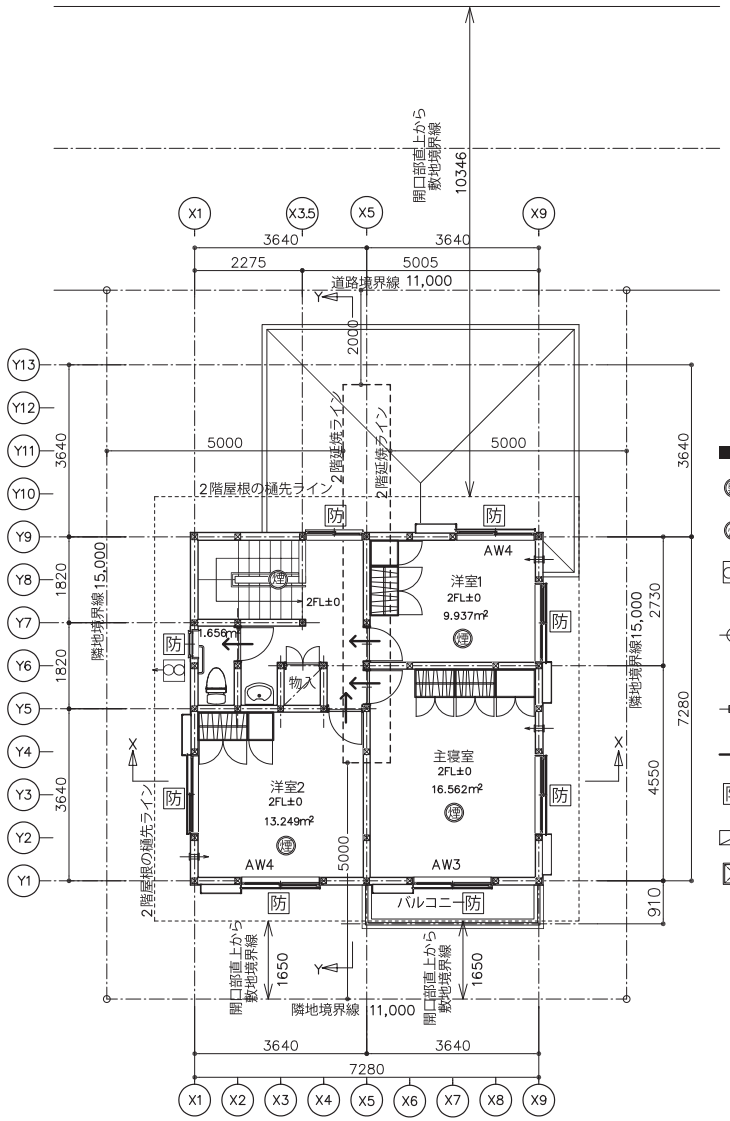
検討II
・台所換気設備計算（火気使用室）
有効換気量（AA-11BBBB）
=400
必要換気量
=30×K(m3)×Q(KWkg/h)
=300.76
K（都市ガス）=0.93
Q（AA-B111-BBBBBB）=10.78
→有効換気量＞必要換気量

検討III
・出窓
出幅：外壁面より375＜500
高さ：床より800＞300
窓面積=1.615×1.2=1.938
見附面積×1/2
=1.615×1.2×1/2
=0.969
窓面積≧見附面積×1/2

地盤面=BM+336
±0：BMからの高さを示す

真北

■1階平面図 S=1/100



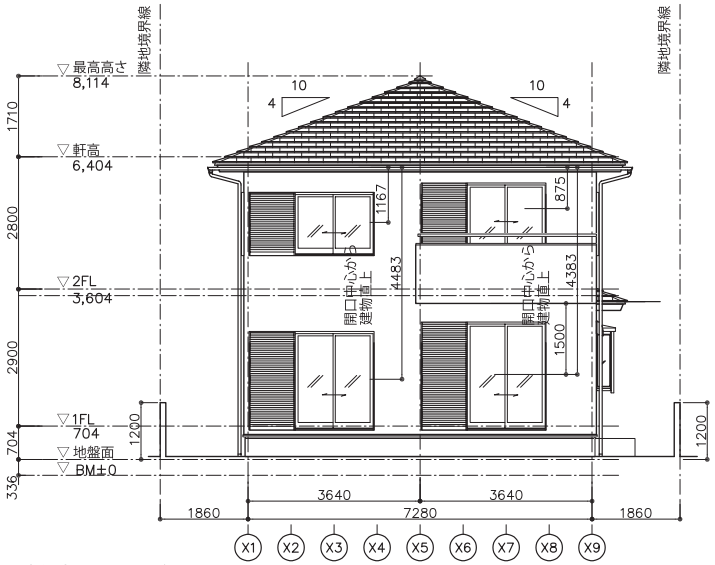
■凡例

- 住宅用防災機器（熱式感知器）
- 住宅用防災機器（煙式感知器）
- 換気扇100φ・防火覆い付（令20条の8による換気設備）設置高さ=FL+2100
- 換気扇100φ・防火覆い付（台所のみ150φ・FD付）設置高さ=FL+2100（レンジフード材質：亜鉛鉄板）
- 給気口100φ・防火覆い付 設置高さ=FL+2100
- ドアのｱﾝﾀﾞｰｶｯﾄ等（通気措置）
- 防火設備 アルミサッシ+複層ガラスA12（網入厚6.8含）
- 給湯器
- 床下点検口

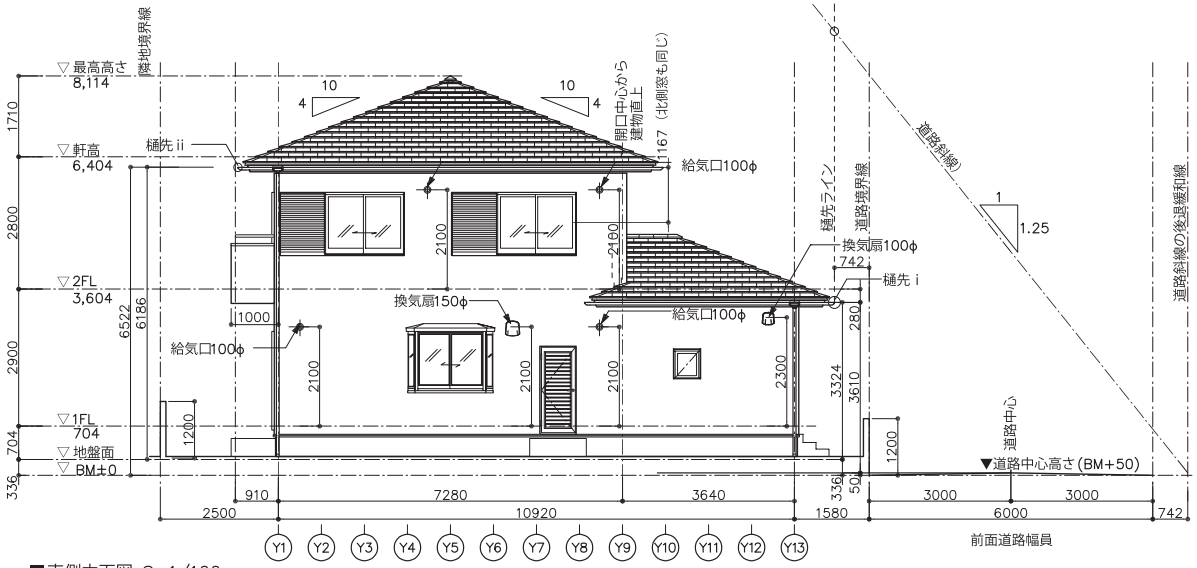
真北

■2階平面図 S=1/100

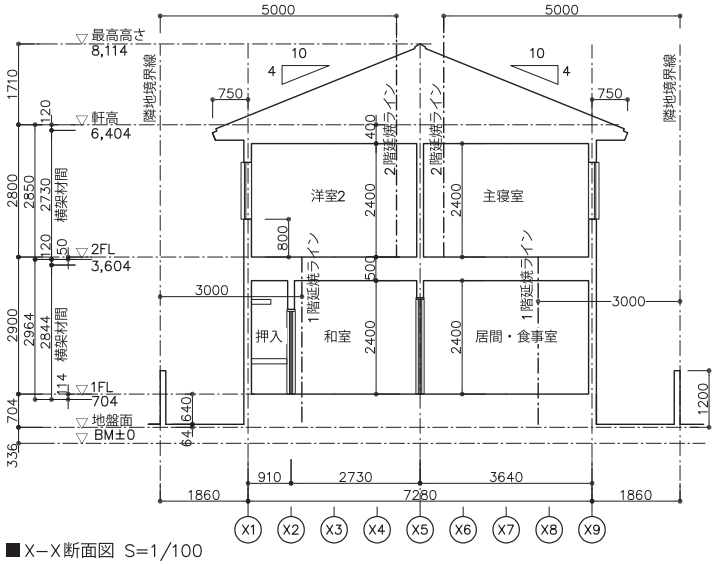
一級建築士事務所	○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	○○邸新築工事		
		平面図	1/100	03



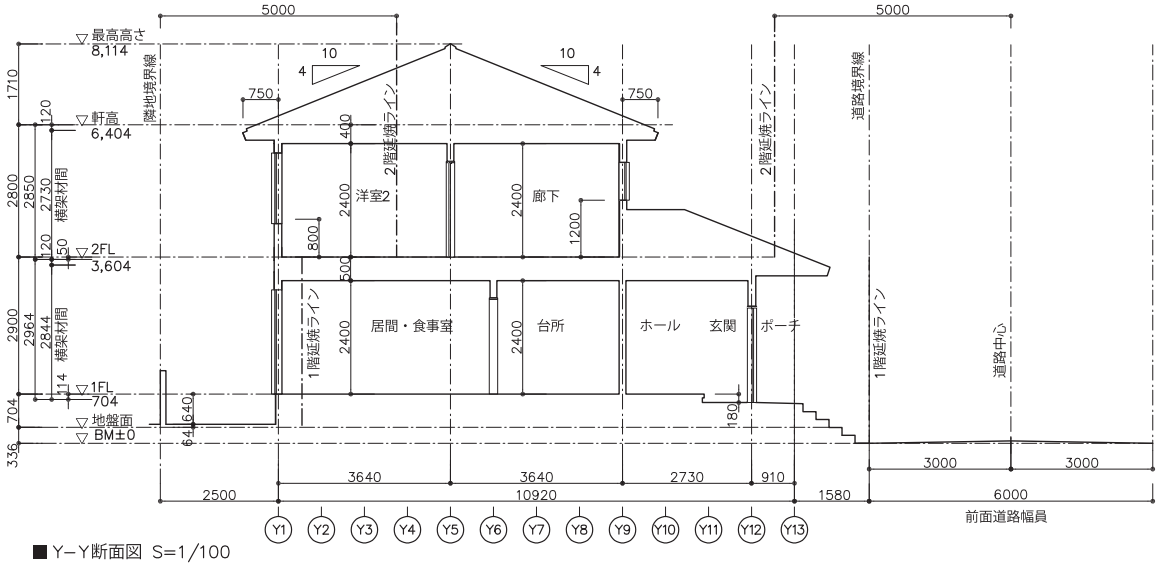
■南側立面図 S=1/100



■東側立面図 S=1/100



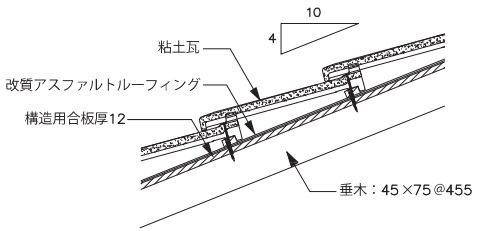
■X−X断面図 S=1/100



■Y−Y断面図 S=1/100

一級建築士事務所 ○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	工事名称 ○○邸新築工事		日付
	図面名称 立面図・断面図	縮尺 1/100	図番 04

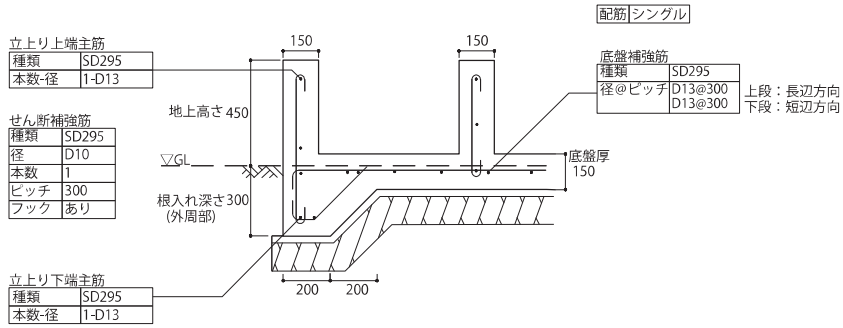
■耐火構造等の構造詳細図（屋根） S=1/10



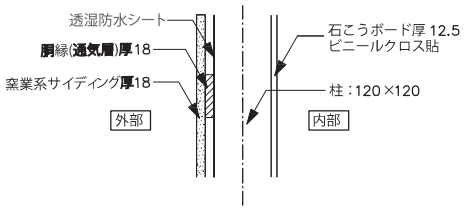
■基礎の仕様 S=1/20

基礎形式	べた基礎

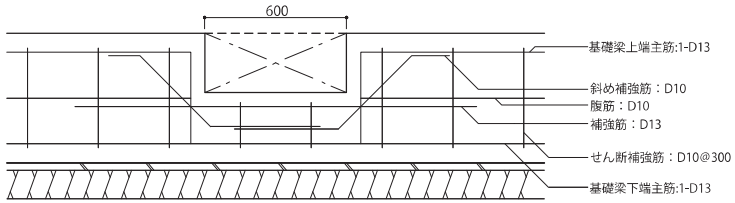
(単位:mm)



■耐火構造等の構造詳細図（外壁） S=1/10



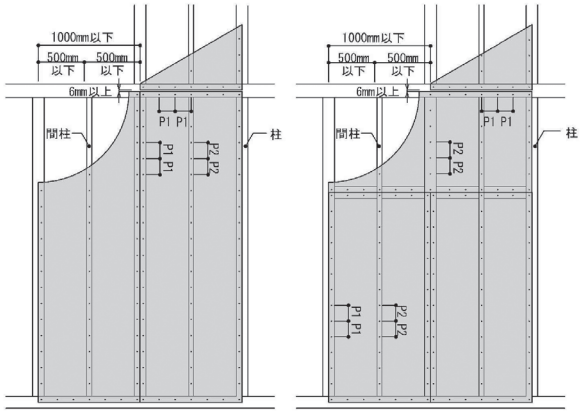
■人通口廻りの開口部補強 S=1/20



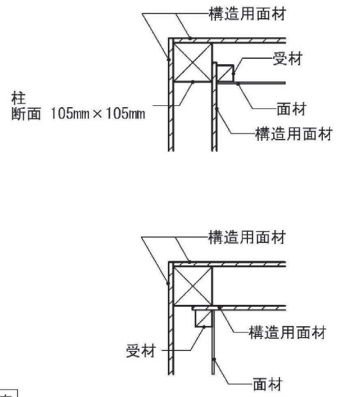
一級建築士事務所 ○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	工事名称 ○○邸新築工事		日付
	図面名称 構造詳細図(1)	縮尺 1/10,1/20	図番 05

○軸組の構造方法

構造用面材との取合い

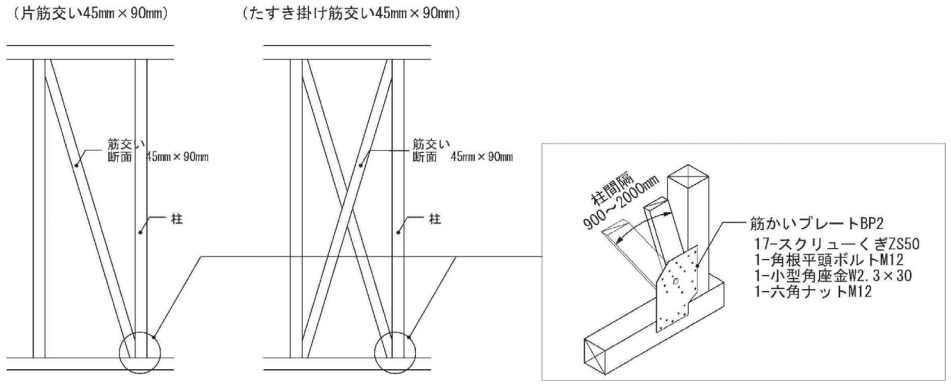


構造用面材の隅部の取合い



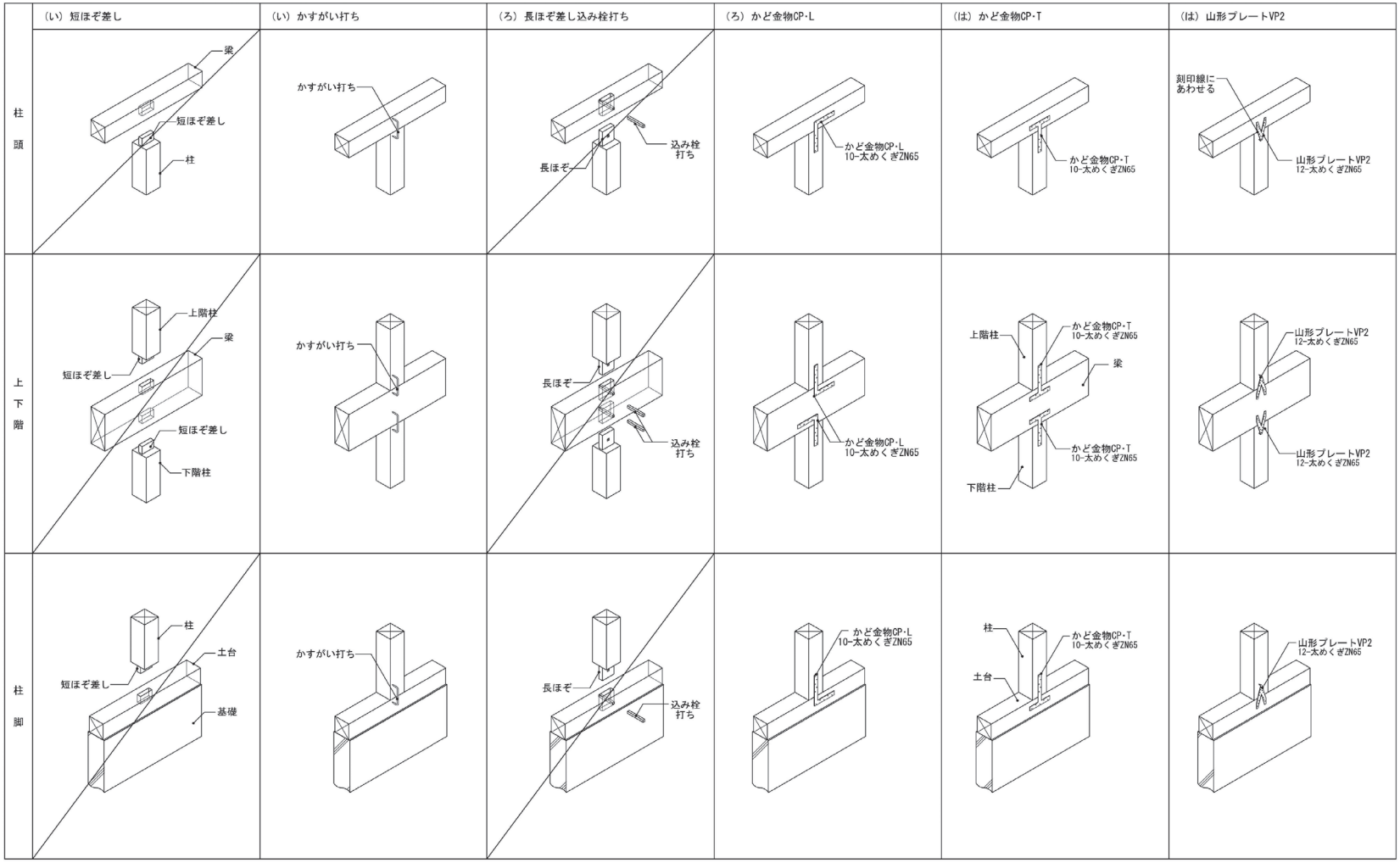
構造用面材の種類	厚み(mm)	くぎの種類	外周部くぎ間隔P1	内部くぎ間隔P2	壁倍率
構造用合板	9	N50	150mm以下	150mm以下	2.5

筋交いとの取合い



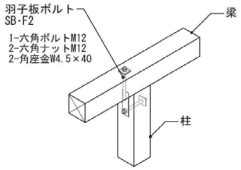
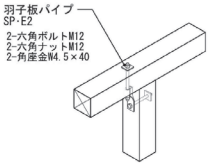
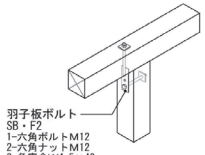
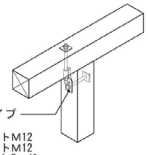
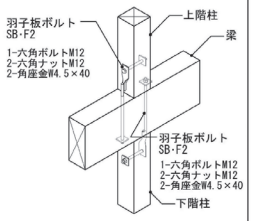
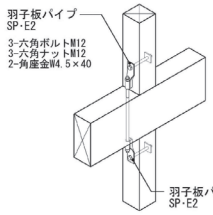
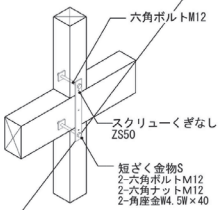
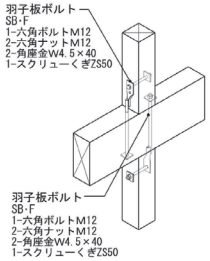
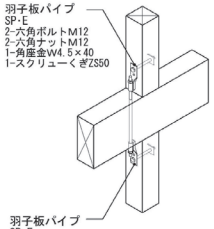
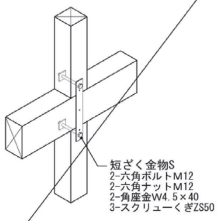
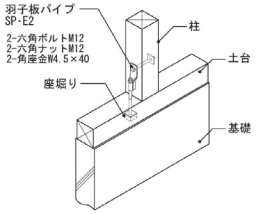
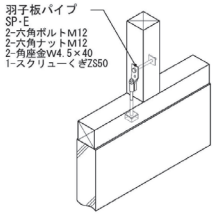
一級建築士事務所 ○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	工事名称 ○○邸新築工事		日付
	図面名称 構造詳細図(2)	縮尺 —	図番 06

■継手及び仕口の構造方法



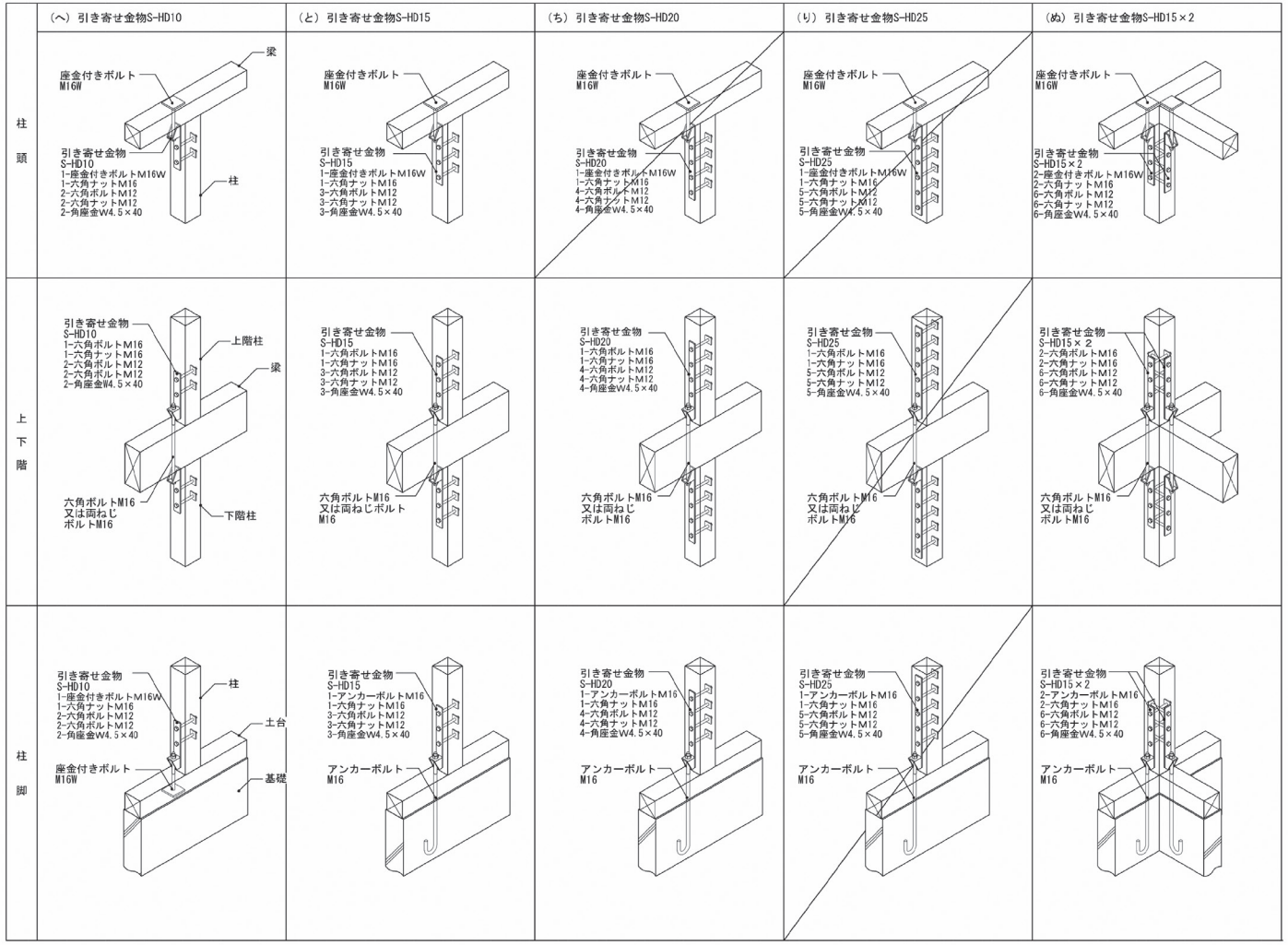
一級建築士事務所	○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	○○邸新築工事	
		構造詳細図(3)	縮尺 — 図番 07

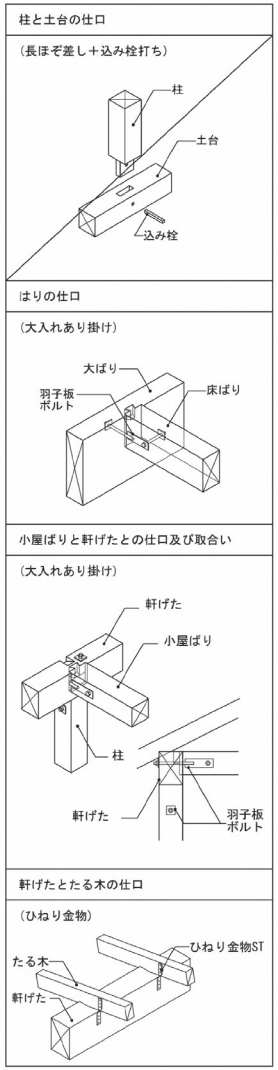
■継手及び仕口の構造方法

	(に) 羽子板ボルトSB･F2(E2)、羽子板パイプSP･E2		(に) 短ざく金物S(スクリューくぎなし)	(ほ) 羽子板ボルトSB･F(E)、羽子板パイプSP･E		(ほ) 短ざく金物S(スクリューくぎあり)
柱頭	 ※羽子板ボルトSB・E2でも可					
上下階						
柱脚						

一級建築士事務所 ○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	工事名称 ○○邸新築工事		日付
	図面名称 構造詳細図(4)	縮尺 —	図番 08

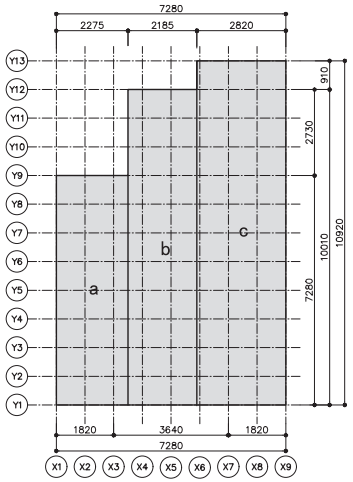
■継手及び仕口の構造方法



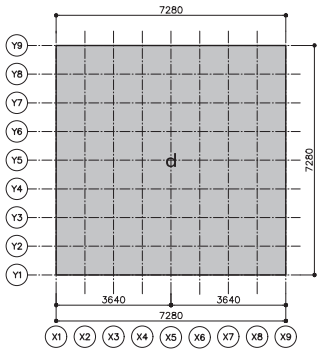


一級建築士事務所 ○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	工事名称 ○○邸新築工事		作成	
	図面名称 構造詳細図(5)	縮尺 —	図番 09	

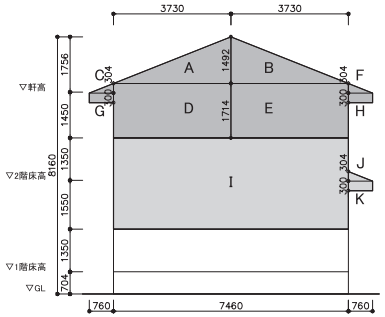
■1階床面積根拠図



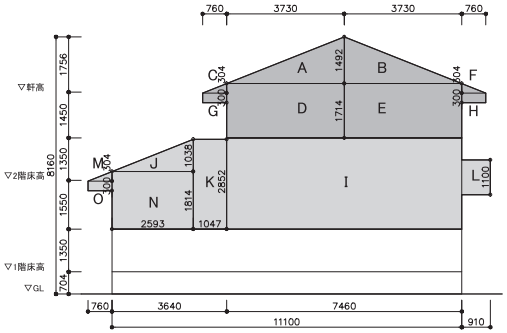
■2階床面積根拠図



■X軸方向見付面積根拠図



■Y軸方向見付面積根拠図



■1階床面積計算表

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	7.280	2.275	16.5620000	
b	10.010	2.185	21.8718500	
c	10.920	2.820	30.7944000	

■2階床面積計算表

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
d	7.280	7.280	52.9984000	

■壁量判定用床面積

階	部位	計算式	壁量判定用床面積 (㎡)
2階	床	d	53.00
	合計	(2階床)	53.00
1階	床	a+b+c	69.23
	合計	(1階床)	69.23

■X方向見付面積計算表

区画	計算式	面積 (㎡)
A	3.730 × 1.492 ÷ 2	2.7825800
B	3.730 × 1.492 ÷ 2	2.7825800
C	0.760 × 0.304 ÷ 2	0.1155200
D	3.730 × 1.714	6.3932200
E	3.730 × 1.714	6.3932200
F	0.760 × 0.304 ÷ 2	0.1155200
G	0.760 × 0.300	0.2280000
H	0.760 × 0.300	0.2280000
I	7.460 × 2.900	21.6340000
J	0.760 × 0.304 ÷ 2	0.1155200
K	0.760 × 0.300	0.2280000

■Y方向見付面積計算表

区画	計算式	面積 (㎡)
A	3.730 × 1.492 ÷ 2	2.7825800
B	3.730 × 1.492 ÷ 2	2.7825800
C	0.760 × 0.304 ÷ 2	0.1155200
D	3.730 × 1.714	6.3932200
E	3.730 × 1.714	6.3932200
F	0.760 × 0.304 ÷ 2	0.1155200
G	0.760 × 0.300	0.2280000
H	0.760 × 0.300	0.2280000
I	7.460 × 2.900	21.6340000
J	2.593 × 1.038 ÷ 2	1.3457670
K	1.047 × 2.852	2.9860440
L	0.910 × 1.100	1.0010000
M	0.760 × 0.304 ÷ 2	0.1155200
N	2.593 × 1.814	4.7037020
O	0.760 × 0.300	0.2280000

■X軸方向見付面積計算結果→Y方向必要壁量の根拠

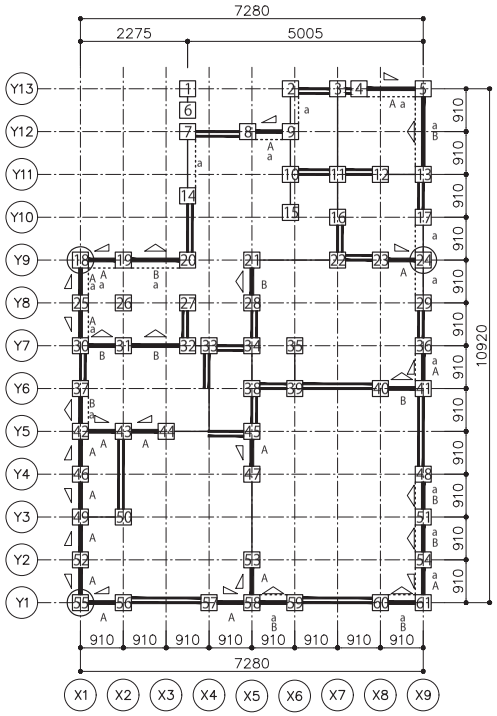
階	計算式	見付面積 (㎡)
2階	2階A+B+C+D+E+F+G+H	19.04
1階	1階A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K	41.02

■Y軸方向見付面積計算結果→X方向必要壁量の根拠

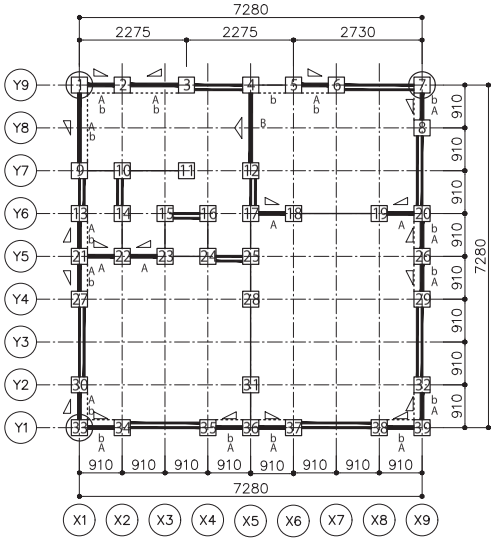
階	計算式	見付面積 (㎡)
2階	2階A+B+C+D+E+F+G+H	19.04
1階	1階A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K+L+M+N+O	51.05

	一級建築士事務所 ○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	工事名称 ○○邸新築工事		日付
		図面名称 床面積・見付面積計算表	縮尺 —	図番 10

■1階壁量平面図



■2階壁量平面図



凡例 ― 一般壁 ═ 開口部 ━ 耐力壁 ┄ 準耐力壁等 △ 筋かいダブル ▽ 筋かいシングル 柱頭 柱脚 □ 柱 ⓜ 通し柱

■耐力壁・準耐力壁仕様一覧

種類	壁記号	材種名	基準倍率	係数	開口有無	開口高さ(cm)	取付高さ(cm)	下地貼材高さ(cm)	垂壁高さ(cm)	腰壁高さ(cm)	下地貼材実高さ(cm)	横架材間内法寸法(cm)	有効壁倍率	最低厚さ(mm)	規格	くぎ打ちの方法	
																種類	間隔(mm)
耐力壁	A	筋かい(45×90)(シングル)	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.00	-		-	-
	B	筋かい(45×90)(ダブル)	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.00	-		-	-
準耐力壁等	a	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.9	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	12.0	JIS A6901-2005	GNF40又はGNC40	150以下
	b	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.9	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	12.0	JIS A6901-2005	GNF40又はGNC40	150以下

・有効壁倍率=基準倍率×係数×下地貼材実高さ÷横架材間内法寸法

■壁量判定

階・方向	地震力に対する床面積当たりの必要壁量			風圧力に対する見付面積当たりの必要壁量			必要壁量の決定				存在壁量	壁量判定
	床面積(㎡)	係数(cm/㎡)	必要壁量(cm)	見付面積(㎡)	係数(cm/㎡)	必要壁量(cm)	地震力(cm)	記号	風圧力(cm)	必要壁量(cm)	(cm)	必要壁量≦存在壁量
	A	B	C=A×B	D	E	F=D×E	C		F	G	H	G≦H
2階X方向	53.00	27	1,431.00	19.04	50	952.00	1,431.00	>	952.00	1,431.00	2,456.55	OK
2階Y方向			1,431.00	19.04		952.00	1,431.00	>	952.00	1,431.00	2,750.93	OK
1階X方向	69.23	34	2,353.82	51.05	50	2,552.50	2,353.82	<	2,552.50	2,552.50	4,381.65	OK
1階Y方向			2,353.82	41.02		2,051.00	2,353.82	>	2,051.00	2,353.82	4,556.83	OK

・建物の重さ重い屋根　　・風力区分÷一般地域
・各階ごとに、X方向、Y方向のそれぞれについて、CとFを比較して、大きい方を建築物の必要壁量として採用します。

■存在壁量の算定

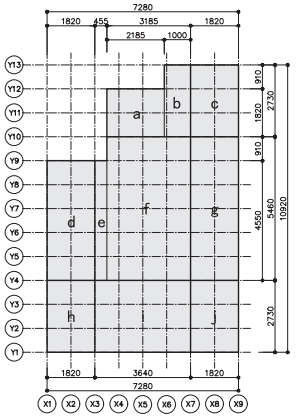
階・方向	壁記号	有効壁倍率	壁長(cm)	存在壁量(耐力壁)(cm)	存在壁量(準耐力壁等)(cm)	存在壁量(合計)(cm)
2階/X方向	A	2.00	1,046.50	2,093.00		2,456.55
	b	0.47	773.50		363.55	
2階/Y方向	A	2.00	819.00	1,638.00		2,750.93
	B	4.00	182.00	728.00		
	b	0.47	819.00		384.93	
1階/X方向	A	2.00	773.50	1,547.00		4,381.65
	B	4.00	637.00	2,548.00		
	a	0.45	637.00		286.65	
1階/Y方向	A	2.00	910.00	1,820.00		4,556.83
	B	4.00	546.00	2,184.00		
	a	0.45	1,228.50		552.83	

■準耐力壁等の必要壁量に対する割合の確認

階・方向	必要壁量(cm)	存在壁量(準耐力壁等)(cm)	B/A	判定
	A	B	C	C<1/2
2階/X方向	1,431.00	363.55	0.26	OK
2階/Y方向	1,431.00	384.93	0.27	OK
1階/X方向	2,552.50	286.65	0.12	OK
1階/Y方向	2,353.82	552.83	0.24	OK

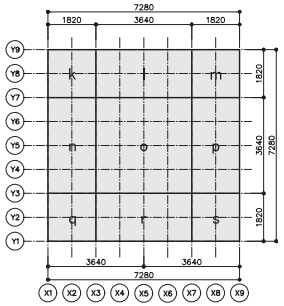
・各階・各方向の必要壁量の1/2以下の範囲内で準耐力壁等を加算する場合、準耐力壁等を考慮せずに壁配置のバランスの確認を行います。また、壁倍率が1.5倍以下の準耐力壁等を考慮せずに柱頭・柱脚の接合方法の確認を行います。

一級建築士事務所	○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築　次郎	工事名称	○○邸新築工事	尺度
		図面名称	壁量判定　兼　耐力壁図	縮尺 ―	図番 11



■1階四分割法面積根拠図

凡例　床面積区画　a b c･･･床面積区画名



■2階四分割法面積根拠図

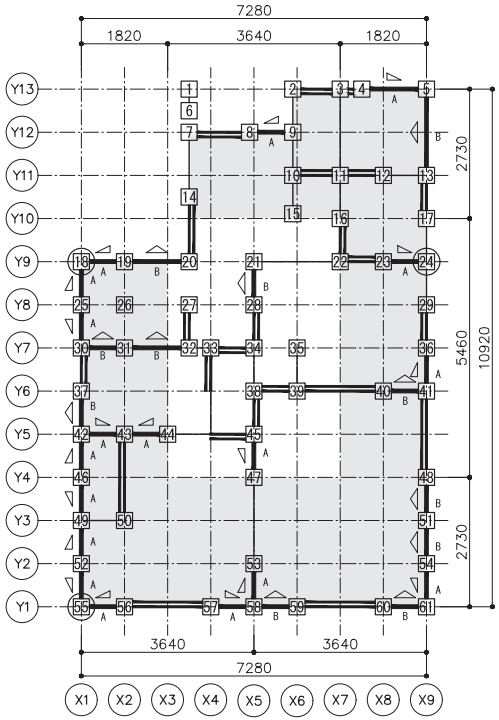
■区画別床面積計算表

[1階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	1.820	2.185	3.9767000	
b	2.730	1.000	2.7300000	
c	2.730	1.820	4.9686000	
d	4.550	1.820	8.2810000	
e	4.550	0.455	2.0702500	
f	5.460	3.185	17.3901000	
g	5.460	1.820	9.9372000	
h	2.730	1.820	4.9686000	
i	2.730	3.640	9.9372000	
j	2.730	1.820	4.9686000	

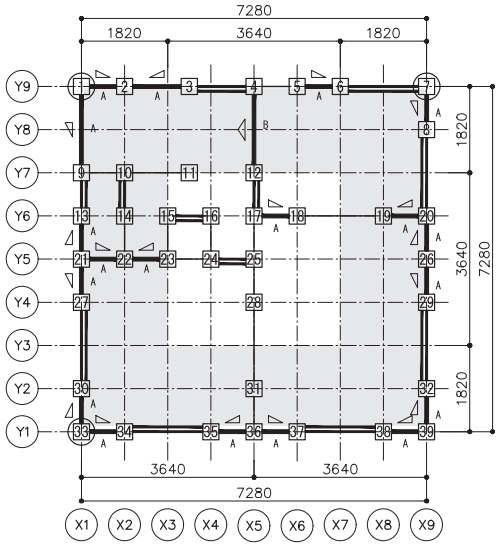
[2階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
k	1.820	1.820	3.3124000	
l	1.820	3.640	6.6248000	
m	1.820	1.820	3.3124000	
n	3.640	1.820	6.6248000	
o	3.640	3.640	13.2496000	
p	3.640	1.820	6.6248000	
q	1.820	1.820	3.3124000	
r	1.820	3.640	6.6248000	
s	1.820	1.820	3.3124000	



■1階四分割法平面図

凡例　一般壁　開口部　耐力壁　1/4範囲　筋かいダブル　筋かいシングル　柱　通し柱



■2階四分割法平面図

■四分割対象面積

階	方向	位置	計算式	面積 (㎡)
2	X	上	(k+l+m)	13.25
		下	(q+r+s)	13.25
	Y	左	(k+n+q)	13.25
		右	(m+p+s)	13.25
1	X	上	(a+b+c)	11.68
		下	(h+i+j)	19.88
	Y	左	(d+h)	13.25
		右	(c+g+j)	19.88

■ 四分割法判定

階	方向	位置	有効面積 (㎡)	壁量係数 (cm/㎡)	地震割増	必要壁量 (cm)	存在壁量 (cm)	壁量充足率	壁量充足率判定	壁量充足率がNGの場合 壁率比	壁率比判定
			①	②	③	④=①×②×③	⑤	⑥=⑤÷④	⑥>1.00	⑦=⑥小÷⑥大	⑦≧0.5
2	X	上	13.25	27	1.0	357.75	637.00	1.78	OK	(0.87)	(OK)
		下	13.25	27	1.0	357.75	728.00	2.03	OK		
	Y	左	13.25	27	1.0	357.75	910.00	2.54	OK	(0.79)	(OK)
		右	13.25	27	1.0	357.75	728.00	2.03	OK		
1	X	上	11.68	20(＊)	1.0	233.60	455.00	1.95	OK	(0.83)	(OK)
		下	19.88	34	1.0	675.92	1,092.00	1.62	OK		
	Y	左	13.25	34	1.0	450.50	1,456.00	3.23	OK	(0.83)	(OK)
		右	19.88	34	1.0	675.92	1,820.00	2.69	OK		

・壁量係数欄の(＊)は2階が乗らない領域のため平屋の係数を用いたことを表します。
・壁比率判定は、壁量充足率が全てOKの場合記入不要ですが、参考として( )を付けて記入しています。

四分割法判定
適合

■1階X方向上の存在壁量(cm)

	種類	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
上	耐力壁	Y13	273.00										273.00
		Y12	182.00										182.00
	存在壁量												455.00

■1階X方向下の存在壁量(cm)

	種類	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
下	耐力壁	Y1	182.00	182.00	364.00	364.00							1,092.00
	存在壁量												1,092.00

■1階Y方向左の存在壁量(cm)

	種類	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
左	耐力壁	X1	182.00	182.00	364.00	182.00	182.00	182.00	182.00				1,456.00
	存在壁量												1,456.00

■1階Y方向右の存在壁量(cm)

	種類	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
右	耐力壁	X9	728.00	182.00	364.00	364.00	182.00						1,820.00
	存在壁量												1,820.00

■2階X方向上の存在壁量(cm)

	種類	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
上	耐力壁	Y9	182.00	273.00	182.00								637.00
	存在壁量												637.00

■2階X方向下の存在壁量(cm)

	種類	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
下	耐力壁	Y1	182.00	182.00	182.00	182.00							728.00
	存在壁量												728.00

■2階Y方向左の存在壁量(cm)

	種類	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
左	耐力壁	X1	364.00	182.00	182.00	182.00							910.00
	存在壁量												910.00

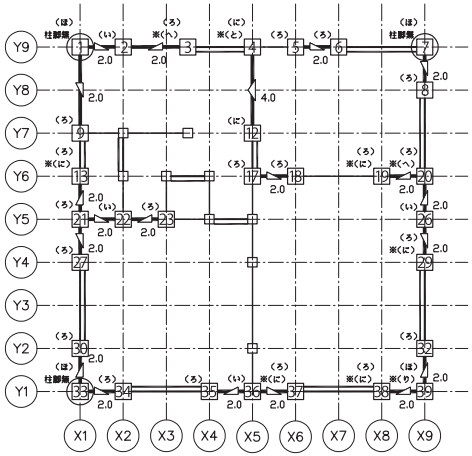
■2階Y方向右の存在壁量(cm)

	種類	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
右	耐力壁	X9	182.00	182.00	182.00	182.00							728.00
	存在壁量												728.00

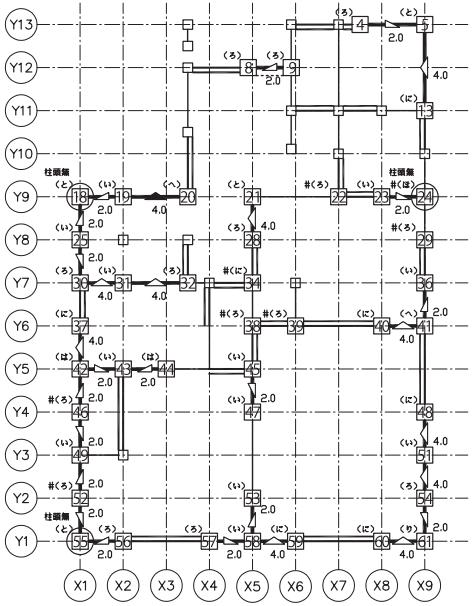
・各通りに存在する耐力壁(筋かい・面材)毎の存在壁量を壁1、壁2、…と表示しています。
(存在壁量 ＝ 耐力壁の壁倍率 × 長さ とします)

一級建築士事務所	○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	工事名称: ○○邸新築工事	作成:
		図面名称: 四分割法判定	縮尺: ― / 図番: 12

■2階柱頭柱脚金物算定平面図



■1階柱頭柱脚金物算定平面図



凡例 ― 一般壁 ═ 開口部 ━ 耐力壁 △ 筋かいダブル 柱頭◺柱脚 筋かいシングル ⓝ 柱 ⓝ 通し柱

■1階柱頭柱脚金物算定表

柱	方向	1階 柱状況	1階 パターン	1階 補正値	1階 A1	1階 B1	柱	2階 柱状況	2階 パターン	2階 補正値	2階 A2	2階 B2	L	N	接合金物 柱頭	接合金物 柱脚
4	X	下屋／他柱	0.0 ＼2.0	0.5	2.5	0.5							0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
5	X	下屋／出隅	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.8							0.4	0.80	(と)	(と)
	Y		4.0 × 0.0	0.0	4.0									2.80		
8	X	下屋／他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5							0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
9	X	下屋／他柱	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.5							0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
13	Y	下屋／他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5							0.6	1.40	(に)	(に)
18	X	出隅	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.8	1	出隅	0.0 ＼2.0	0.5	2.5	0.8	1.0	2.20	無(通し柱)	(と)
	Y	出隅	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.8	1	出隅	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.8		2.20		
19	X	他柱	2.0 ／× 4.0	0.5	2.5	0.5	2	他柱	2.0 ＼／ 2.0	0.0	0.0	0.5	1.6	-0.35	(い)	(い)
20	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	3	他柱	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.65	(へ)	(へ)
21	X	他柱	0.0 ＼ 0.0	0.0	0.0	0.5	5	他柱(右)	0.0 ＼ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	-0.35	(と)	(と)
	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	4	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5		2.40		
22	X	他柱	0.0 ＼ 0.0	0.0	0.0	0.5	5	他柱(左)	0.0 ＼ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
23	X	他柱	0.0 ＼ 2.0	0.5	2.5	0.5							1.6	-0.35	(い)	(い)
24	X	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	無(通し柱)	#(ほ)
	Y	他柱	0.0 ＼ 0.0	0.0	0.0	0.5	7	出隅	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.8		0.40		
25	Y	他柱	2.0 ／＼ 2.0	1.0	1.0	0.5							1.6	-1.10	(い)	(い)
28	Y	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5							1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
29	Y	他柱	0.0 ＼ 0.0	0.0	0.0	0.5	8	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.85	#(ろ)	#(ろ)
30	X	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5							1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
	Y	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	9	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5		-0.10		
31	X	他柱	4.0 ×× 4.0	0.0	0.0	0.5							1.6	-1.60	(い)	(い)
32	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5							1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
34	Y	他柱	0.0 ＼ 0.0	0.0	0.0	0.5	12	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	1.6	0.40	#(に)	#(に)
36	Y	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	(い)	(い)
37	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	13	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
38	X	他柱	0.0 ＼ 0.0	0.0	0.0	0.5	17	他柱	0.0 ＼ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
39	X	他柱	0.0 ＼ 0.0	0.0	0.0	0.5	18	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.85	#(ろ)	#(ろ)
40	X	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	19	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
41	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	20	他柱	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.65	(へ)	(へ)
	Y	他柱	0.0 ＼ 2.0	0.5	2.5	0.5	20	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5		0.40		
42	X	他柱	0.0 ＼ 2.0	0.5	2.5	0.5	21	他柱	0.0 ＼ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	0.90	(は)	(は)
	Y	他柱	2.0 ＼× 4.0	0.0	2.0	0.5	21	他柱	2.0 ／＼ 2.0	1.0	1.0	0.5		-0.10		
43	X	他柱	2.0 ＼／ 2.0	0.0	0.0	0.5	22	他柱	2.0 ＼／ 2.0	0.0	0.0	0.5	1.6	-1.60	(い)	(い)
44	X	他柱	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.5	23	他柱	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	0.90	(は)	(は)
45	Y	他柱	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.5							1.6	-0.35	(い)	(い)
46	Y	他柱	2.0 ／＼ 2.0	1.0	1.0	0.5	27	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
47	Y	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	(い)	(い)
48	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	29	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
49	Y	他柱	2.0 ＼／ 2.0	0.0	0.0	0.5							1.6	-1.60	(い)	(い)
51	Y	他柱	4.0 ×× 4.0	0.0	0.0	0.5							1.6	-1.60	(い)	(い)
52	Y	他柱	2.0 ／＼ 2.0	1.0	1.0	0.5	30	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
53	Y	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	(い)	(い)
54	Y	他柱	2.0 ／× 4.0	0.5	2.5	0.5	32	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
55	X	出隅	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.8	33	出隅	0.0 ＼2.0	0.5	2.5	0.8	1.0	2.20	無(通し柱)	(と)
	Y	出隅	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.8	33	出隅	0.0 ＼2.0	0.5	2.5	0.8		2.20		
56	X	他柱	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.5	34	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
57	X	他柱	0.0 ＼ 2.0	0.5	2.5	0.5	35	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
58	X	他柱	2.0 ＼× 4.0	0.0	2.0	0.5	36	他柱	2.0 ／＼ 2.0	1.0	1.0	0.5	1.6	-0.10	(い)	(い)
	Y	他柱	0.0 ＼ 2.0	0.5	2.5	0.5								-0.35		
59	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	37	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
60	X	他柱	0.0 ×4.0	0.0	4.0	0.5	38	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
61	X	出隅	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.8	39	出隅	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.8	1.0	4.20	(り)	(り)
	Y	出隅	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.8	39	出隅	0.0 ＼2.0	0.5	2.5	0.8		2.20		

■2 階柱頭柱脚金物算定表

柱	方向	柱状況	パターン	補正値	A1	B1	L	N	接合金物 柱頭	接合金物 柱脚
1	X	出隅	0.0 ＼2.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	無(通し柱)
	Y		2.0 ／ 0.0	0.5	2.5			1.60		
2	X	他柱	2.0 ／＼ 2.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.60	(い)	(い)
3	X	他柱	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	※(へ)
4	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	0.6	1.40	(に)	※(と)
5	X	他柱	0.0 ＼2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
6	X	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
7	Y	出隅	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	無(通し柱)
8	Y	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
9	Y	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
12	Y	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	0.6	1.40	(に)	(に)
13	Y	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
17	X	他柱	0.0 ＼2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
18	X	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
19	X	他柱	0.0 ＼2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
20	X	他柱	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	※(へ)
	Y		2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5			0.15		
21	X	他柱	0.0 ＼2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
	Y		2.0 ／＼ 2.0	1.0	1.0			-0.10		
22	X	他柱	2.0 ＼／ 2.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.60	(い)	(い)
23	X	他柱	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
26	Y	他柱	2.0 ／＼ 2.0	1.0	1.0	0.5	0.6	-0.10	(い)	(い)
27	Y	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
29	Y	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
30	Y	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
32	Y	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
33	X	出隅	0.0 ＼2.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	無(通し柱)
	Y		0.0 ＼2.0	0.5	2.5			1.60		
34	X	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
35	X	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
36	X	他柱	2.0 ／＼ 2.0	1.0	1.0	0.5	0.6	-0.10	(い)	(い)
37	X	他柱	2.0 ＼ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
38	X	他柱	0.0 ／2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
39	X	出隅	2.0 ／ 0.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	※(り)
	Y		0.0 ＼2.0	0.5	2.5			1.60		

■使用金物一覧

N値	告示表三	金物名(同等以上)	略称
0	(い)	短ほぞ差し又はかすがい打ち、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	ｶｽｶﾞｲ
～0.65	(ろ)	長ほぞ差し込み栓又はかど金物CP-L、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	CP-L
～1.0	(は)	山形プレートVP又はかど金物CP-T、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	VP
～1.4	(に)	羽子板ボルト又は短冊金物（スクリュー釘なし）、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	SB-F2
～1.6	(ほ)	羽子板ボルト又は短冊金物（スクリュー釘あり）、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	SB-F
～1.8	(へ)	10kN引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	HD-B10
～2.8	(と)	15kN引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	HD-B15
～3.7	(ち)	20kN引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	HD-B20
～4.7	(り)	25kN引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	HD-B25
～5.6	(ぬ)	15kN引き寄せ金物×2、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	HD-B15X2
5.6超	(―)		N>5.6

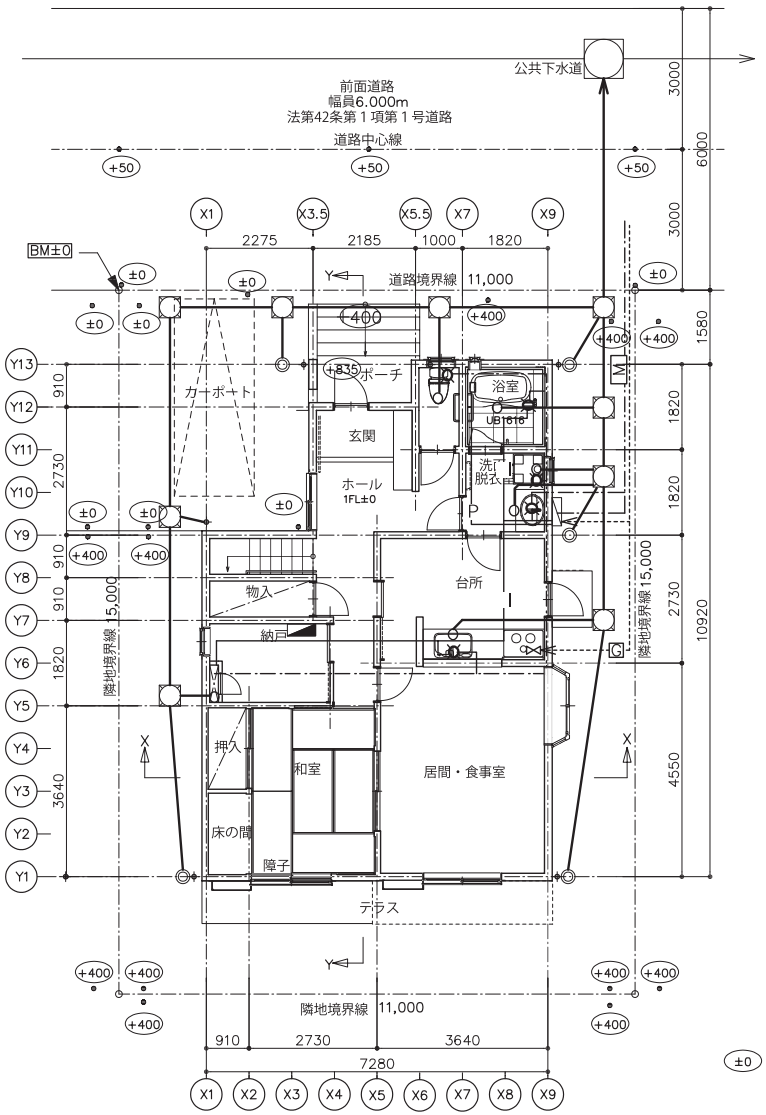
■ 記号の説明
- 「方向」… 柱に斜め方向の耐力壁が取り付く場合は方向が「Z1方向」「Z2方向」となります。（最大斜め2方向まで）
- 「パターン」… 柱両側の耐力壁の取り付きを表しています。X：筋かいダブル ／：筋かいシングル
- 「2階 柱状況」… ( ) 表記は、1階の柱から見た2階の柱の平面位置を表しています。
- 「接合金物(柱頭・柱脚)」… #は1階柱の金物をよりN値の大きい2階柱の金物に合わせたことを表しています。
（2階柱の引抜力を土台・基礎に伝達する必要があるため）
※は2階柱脚金物をよりN値の大きい1階柱頭の金物に揃えたことを表しています。
（1つの金物で上下階の柱を接合するため）

一級建築士事務所 ○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 次郎	工事名称 ○○邸新築工事		日付	
	図面名称 柱頭柱脚金物算定	縮尺 ―	図番 13	

設備概要		
	給水	給水本管より
	給温水	ガス給湯器より
	排水	汚水・雑排水合流方式にて下水道本管処理
	ガス	厨房用・給湯用として都市ガス13A(低圧ガス)
	換気	自然換気・第3種機械換気

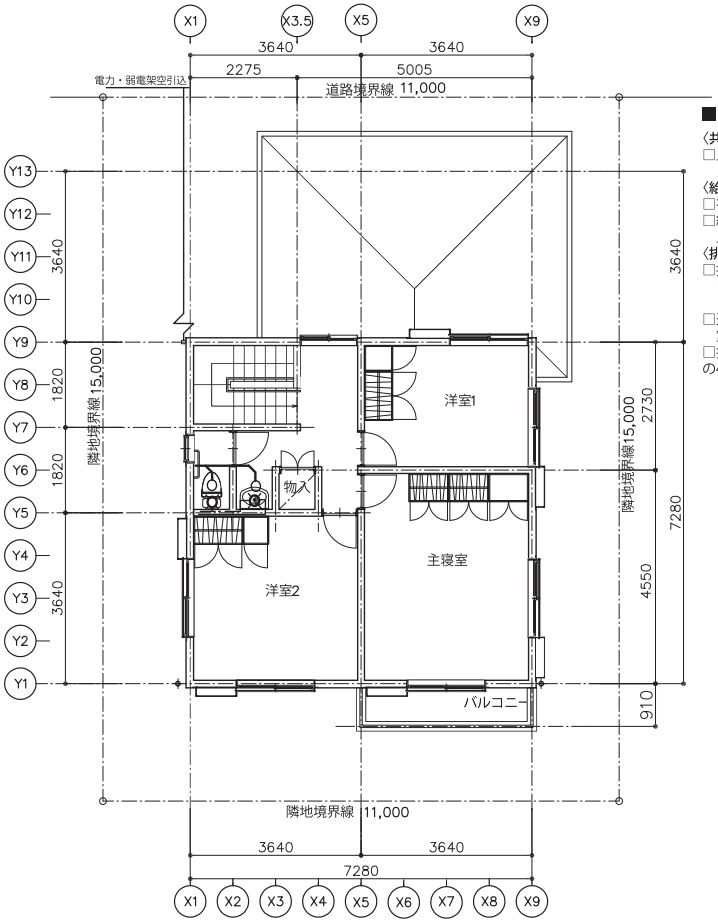
■凡例

- M 引込み管　水道用塩化ビニル管
- 給水管　水道用塩化ビニル管20φ（防露GW厚20）
- 給湯管　ステンレス鋼管　20φ（防露GW厚20）
- P 給湯管　ペアチューブ銅管
- 排水管　硬質ポリ塩化ビニル管
- G ガス管　○○ガス指定品
- 給湯器
- 混合水栓（給湯・給水）
- 水栓（給水）
- 排水
- 追焚き
- 排水桝
- 竪樋 60φ
- 雨水枡 200φ
- 受電点（電圧：単相3線式200V）
- 分電盤



±0 :BMからの高さを示す

■1階平面図 S=1/100



■特記事項

〈共通〉
□上水道管理者及び下水道管理者と協議済み

〈給水設備〉
□有効な吐水口空間を確保すること
□給水管にはウォーターハンマー防止措置を行う

〈排水設備〉
□排水トラップの構造は、昭50年第1597号第2第3号の規定に適合すること
□通気管の構造は、昭50年第1597号第2第5号の規定に適合すること
□排水配管の構造は、令129条の2の4第3項に適合すること

真北

■2階平面図 S=1/100

一級建築士事務所 ○○○○建築設計事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築　次郎	工事名称	○○邸新築工事	設計
	図面名称	給排水衛生・電気設備図	縮尺 1/100	図番 14

・ホルムアルデヒドの発散による衛生上の支障がないようにするための構造

種類	機械換気設備（第３種換気）
換気回数	0.63回/ｈ（下表による）
居室出入口の通気措置	ドアのアンダーカット１cm、ふすま、引戸、換気ガラリ
機械換気 最終設置場所	便所（１階、２階）

■居室毎の機械換気設備※換気経路ではない納戸、押入は対象外

室名	床面積 ㎡	平均天井高 h	気積 ㎥	必要有効換気量(A) ㎥/ｈ	換気種別	給気機による給気量(A) ㎥/ｈ	排気機による排気量(B) ㎥/ｈ	換気回数 n
１Ｆ 玄関	2.485	2.580	6.412					
１Ｆ ホール	5.300	2.400	12.720					
１Ｆ 廊下	4.304	2.400	10.330					
１Ｆ 階段	2.070	2.175	4.503		第3種換気設備 給気口及び排気機		80	
１Ｆ 便所	1.820	2.400	4.368					
１Ｆ 台所	9.937	2.400	23.849					
１Ｆ 居間	16.562	2.400	39.749					
１Ｆ 和室・床の間	11.593	2.400	27.824					
２Ｆ 廊下	6.624	2.400	15.898					
２Ｆ 階段	4.140	2.400	9.936		第3種換気設備 給気口及び排気機		80	
２Ｆ 便所	1.656	2.400	3.975					
２Ｆ 主寝室	16.562	2.400	39.749					
２Ｆ 洋室1	9.937	2.400	23.849					
２Ｆ 洋室2	13.249	2.400	31.798	254.960×0.5				
合計			254.960	127.480			160	0.63＞0.5

■有効換気計算表

室名	建具記号	開口部名称 サッシサイズ	窓ガラスの面積 B	居室面積 S	有効換気面積 C＝B/2	必要換気面積 D＝S／20	換気判定 C＞D
居間・食事室	AW1	引違い(南側) W1650/H2200	0.7×2.0×2=2.80	16.562	1.40	0.83	ＯＫ
和室	AW2	引違い(南側) W1650/H2000	0.7×1.8×2=2.52	11.593	1.26	0.58	ＯＫ
主寝室	AW3	引違い(南側) W1650/H2000	0.7×1.8×2=1.26	16.562	1.26	0.83	ＯＫ
洋室１	AW4	引違い(北側) W1650/H1100	0.7×1.0×2=1.40	9.937	0.70	0.50	ＯＫ
洋室２	AW4	引違い(南側) W1650/H1100	0.7×1.0×2=1.40	13.249	0.70	0.66	ＯＫ

■ 採光適合確認

室名	建具記号	開口部名称 サッシサイズ	直上頂部から敷地境界 D	窓中心から直上頂部 H	採光補正係数 D/H×6−1.4(算定式)		A	窓ガラスの面積 B	有効採光面積 E＝A×B	居室面積 S	必要採光面積 F＝S／7	採光判定 E＞F
居間・食事室	AW1 2階軒先	引違い(南側) W1650/H2200	1.650	4.383	2階軒先	0.85	0.85	0.7×2.0×2=2.80	2.38	16.562	2.37	ＯＫ
	AW1 バルコニー	引違い(南側) W1650/H2200	1.450	1.500	バルコニー	4.39						
和室	AW2	引違い(南側) W1650/H2000	1.650	4.483	0.80		0.80	0.7×1.8×2=2.52	2.01	11.593	1.66	ＯＫ
主寝室	AW3	引違い(南側) W1650/H2000	1.650	0.875	9.91		3.00	0.7×0.9×2=1.26	3.78	16.562	2.37	ＯＫ
洋室１	AW4	引違い(北側) W1650/H1100	10.346	1.167	51.79		3.00	0.7×1.0×2=1.40	4.20	9.937	1.42	ＯＫ
洋室２	AW4	引違い(南側) W1650/H1100	1.650	1.167	7.08		3.00	0.7×1.0×2=1.40	4.20	13.249	1.89	ＯＫ

居間・食事室の窓AW1の直上にはバルコニーがありますので、バルコニーの頂部と2階軒先から敷地境界線までの水平距離（D)の両方について検討を行い、厳しい条件の方が採光補正係数（A)となります。採光補正係数の最大は、3.0ですので、「D/H×6-1.4」の値が3.0を超えた場合は、3.0が採光補正係数（A)となります。